

れきしみち



三河内藤一族

P2 特集

特別展 安城譜代三

徳川を支えた戦国の中堅武将
知られざる足跡に刮目せよ

2026.10
No.142

P4…特集 葬送のかたち—弥生墳墓と古墳—

P6…館長と行く史跡さんぽ②～安城合戦ゆかりの地(前編)～

P7…特別展開連イベント

P8…安祥文化のさとまつり／市民ギャラリーよりお知らせ



10
土
11
日

富突き

商品券など
豪華景品が当たる

令和8年
10/10土11日
9:00-16:00

会場 安祥文化のさと

・安城市歴史博物館・安祥公民館・安祥城址公園
・安城市民ギャラリー・安城市埋蔵文化財センター

同時開催 第35回 市民陶芸まつり

10/10土 9:00～16:00 10/11日 9:00～15:00 会場 安祥公民館(☎0566-77-5070)

作品展示

公民館の自主グループ等の作品を展示します。

陶芸作品チャリティーバザー

市内の陶芸グループ等にご協力いただき、
色々な陶芸作品を手ごろな価格で販売します。

10日 9:30～11:30 一日陶芸教室

待田和宏先生(日展会員)の指導で湯呑、飯茶碗な
どを作ります。※10月1日～要事前申込
【参加費】500円
【定員】18名(先着順)※中学生以上
【申込】公民館Webページ、窓口にて受付

プログラム 赤字は有料イベント ▶詳細・申込み等はお問合せください。(TEL:0566-77-6655) ※都合により日時・内容等を変更する場合があります。ご了承ください。

※雨天中止
安祥城址公園
石舞台

10日 ■殺陣ショー!
■三河万歳披露

11日 ■棒の手演武
■子ども武者行列「いざ! 安城合戦!」

10日 ■クイズラリー
■さとのマルシェ
■歴史体験 勾玉づくり

東尾八幡社で
秋の
ご朱印頒布

10日 ■桜井風作教室
■歴史団体発表 ■土器作り教室

11日 ■書の実演
■べたべたシールアート! 落ち葉のしおり作り

10日 ■カラフル粘土で古代風トンボ玉をつくろう!

展示 ■歴史のひろば展
(小・中学生の歴史の自由研究を展示)
■発掘のあゆみ展などの歴史展示
■市民ギャラリー企画展「ともに生きる生物たち-共生の姿」

10日 ■花押はんこづくり
■的あて
■なりきり! 戦国武将フォトスポット

展示 ■特別展「安城譜代三 三河内藤一族」
■観覧料 600円
(中学生以下無料)
■常設展
博物館ボランティアガイド

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展 ともに生きる生物たち-共生の姿-



古谷一見《松と三羽鶴》



香村愛子《雪の朝》

本展は、市が収集した地元ゆかりの美術作家の作品と、市内小中学生の作品を併せて紹介する企画展示です。今回は「いきもの」をテーマに、市民ギャラリーの選りすぐりのコレクションと小中学生の応募作品を展示します。

【会期】令和8年10月2日(金)～10月12日(月・祝)
【時間】9:00～17:00※入館は16:30まで
(最終日の観覧は16:00まで)
【会場】市民ギャラリー展示室D・E
【観覧料】無料

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】
住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館

URL / <https://ansyobunka.jp/>



三河内藤一族

【令和8年】
10月3日^土
～11月15日^日

【休館日】
毎週月曜日 ※10月12日は開館

【開館時間】
9:00～17:00 (入場は16:30まで)

【観覧料】
600円 ※中学生以下無料
※団体(20名様以上:480円)

しかし、その直後に断絶し、数代の後、義清の父の代になつて三河に居住し、松平氏に仕えたとなります。系図の一部では、義清の父は重清あるいは家清とするものがあります。

後に大名となった家では象徴的にこの義清を中興の祖としていますが、一族をまとめる物領家の存在は確認できず、おそらく家ごとに繁栄していたと思われる。

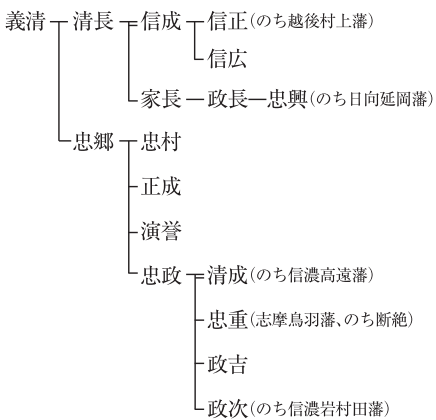
初期の内藤一族

戦国・織豊期の三河、特に安城市を含む西三河の地には、徳川家康に従ったいわゆる「三河武士」たちがいます。有名な酒井や本多、榊原、石川などに比べ、内藤の知名度は下がります。しかし、初期の家康の合戦には活躍がみられ、家康の関東移封では城主となった者もあり、家康や秀忠、家光の小姓など近くに仕えた者も多かったです。江戸時代には大名・旗本を含めて五〇家を出すほどの一族となりました。

このような内藤一族の本拠地の一つとして現在の安城市姫小川町に由来が残り、同町にある誓願寺には、一族の内藤清長と伝えられる墓があります。

安城譜代シリーズは今回で三回目です。大名となつた家の史料を中心に、内藤一族やその家臣となつた三河武士の動きなどを含めた史料を紹介します。

内藤一族の系譜



関東移封と内藤一族

天正十八年(一五九〇)関東の北条氏が滅亡し、家康が関東へ移封となりました。内藤信成は甲斐浄古寺城から家康領国の最西端の伊豆韮山城(静岡県伊豆の国市)主を命じられました。信成は、小田原の役で荒廃した所領の村々の年貢減免や寺社の復興などの内政に力を注ぎました。内藤家長も上総佐貫城(千葉県富津市)主となり、その他の内藤一族も所領を与えられました。



2. 伝内藤信成着用の類当(村上市蔵)

この頃より内藤一族の中で頭角をあらわしたのは内藤清成です。早くから家康嫡子の秀忠の傳役となり、関ヶ原の戦い後には、本多正信・青山忠成とともに関東総奉行といわれる要職につき、官僚的な働きで重用されました。

関ヶ原の戦いと内藤一族

慶長五年(一六〇〇)六月、徳川家康が陸奥会津(福島県会津市)の上杉景勝征伐のため、軍勢を引き連れ大坂を出ました。その間に石田三成が家康の討伐を決し、家康が主を守っていた山城伏見城(京都市)を囲みました。城には家康家臣の鳥居元忠が主将として守衛していました。その中に内藤家長もいました。伏見城の戦いで家長は、二男元長や家臣、附属の者らとともに八月一日に戦死しました。ただ、家臣の一部は生き残った者もいたという諸伝があります。

九月の関ヶ原の戦いには部将として戦った内藤一族

はいなく、信成は駿河興国寺城(静岡県沼津市)、子の信正は伊豆韮山城を守り、内藤家長の子政長は江戸に控えていました。

関ヶ原の戦いの翌年の慶長六年、家康は譜代の者を各地の所領に封じました。信成は四万石で伊豆韮山から駿河府中(駿府)城(静岡市)主となりました。同十一年には家康が駿府城に移るにあたり、近江長浜(滋賀県長浜市)に所替えとなりました。長浜城は京・大坂への北陸道を抑える要地でした。すでに廃城となつていましたが、美濃・飛騨・近江の三か国から普請人夫が動員されて修築されました。

大坂両陣以降の内藤一族

慶長十九年(一六一四)に大坂冬の陣が起きました。この時、信成の子内藤信正は長浜城を守衛してました。家長の子政長は伏見城の戦いで戦死した家長の跡を継いで上総佐貫城を守っていました。ただ、政長の子忠興は出陣を懇願し、手勢で大坂に向かいました。内藤一族の多くは二代將軍秀忠に従って参戦しました。翌年の夏の陣では、信正は大坂城の近くの尼崎城(兵庫県尼崎市)を守衛しました。大坂への出入りの監視と大坂の動向の報告などの役目だったと思われる。

大坂両陣の後、信正は摂津高槻(大阪府高槻市)に所替えとなり、その後山城伏見城代、元和五年(一六一九)



3. 元和5年(1619)
内藤家長・馨崇院画像
(延岡城・内藤記念博物館蔵)

とんです。写真1の内藤橋兵衛尉は本證寺門徒連判状にも名前がありますが、内藤一族の系図上にはみられない人物です。また、地元である西三河には内藤の故事が多く残されていますが、推定の域を超えることはできないのが現状です。

家康のもとの活躍

徳川家康(松平元康)が永禄三年(一五六〇)の桶狭間の戦い後に今川氏より独立し、岡崎を中心に周辺地域に勢力を拡大していきました。三河統一、遠江侵出(今川氏没落)、武田氏滅亡、本能寺の変までの二十数年の間、様々な合戦で内藤一族は活躍しましたが、中でも内藤正成は弓の名手として、また内藤家長・信成は部将として、家康に異見を述べる立場になっています。なお信成は天正三年(一五七五)五月の長篠の戦いで織田信長から見事な武者振りを褒められ、家康が信成の面類(目の下頬当)を取らせ、信長と対面させたという逸話が残されています(写真2)。

その他にも、内藤一族の多くは所領がある西三河に居て、家康の嫡子松平信康の配下にいたと思われます。しかし、天正七年九月に信康は武田氏との関係が露出し、切腹を命じられました。後に信康配下の家臣のうち三〇騎が家長に附属しました。また信成は、天正十年の天正壬午の乱後に甲斐浄古寺城(山梨県山梨市)主を命じられた際に五〇騎が附属し、ともに軍団の拡張がみられます。

には大坂城代を命じられ、西の抑えの役目は継続されました。跡を継いだ信照は陸奥棚倉(福島県棚倉町)に所替えとなりました。

政長は上総佐貫から七万石で陸奥磐城平(福島県いわき市)へ所替えとなりました。幕府への奉公として、軍勢を引き連れて安房館山(同県館山市)の里見氏旧領(筑後柳川(福岡県柳川市)の田中氏旧領の接収などを行つています。この城の接収は、ともすれば城側が抵抗し戦いとなる場合があり、軍勢を率いる信頼のある部将の役目でした。

秀忠から家光へ將軍職が移ると、家光に近い家臣らが台頭しました。清成の弟内藤忠重は秀忠に仕えた後、三代將軍になる家光の傳役となった人物でした。順調に幕府の要職を務め、寛永十一年(一六三四)に二万石で志摩鳥羽城(三重県鳥羽市)主となりました。しかし、延宝八年(一六八〇)三代目の忠勝は四代將軍家綱の葬儀が行われた増上寺での勤務中に、同僚の永井尚長を切り殺すという事件を起こしました。忠勝は翌日切腹、断絶となりました。

清成の子内藤清次は、当時では老中クラスの重職についていましたが、跡継ぎがなく死去、弟清政・正勝と跡を継ぎますが若くして死去し、正勝の子で幼年の重頼が万石を返上して、五〇〇〇石の所領で跡を継ぎました。

重頼は三〇歳過ぎから役職につき、延宝四年に側用人となり、その後大坂城代、京都所司代となりました。跡を継いだ養子の清校が三万三〇〇〇石で信濃高遠城主(長野県伊那市)となりました。

家康から秀忠、家光に代々仕え、内藤一族はその堅実さをもつて多くの家を輩出し、繁栄しました。

内藤一族に関する史料が揃うまとな機会です。今まであまり知られていなかった彼らの活躍をぜひご覧ください。

(文責 三島一信)

特別展 葬送のかたち — 弥生墳墓と古墳 —

令和8年 12/5日 → 令和9年 1/24日

【開館時間】毎週月曜日 ※1月11日(月・祝)は開館

【休館日】9:00~17:00 (入館は16:30まで)

【観覧料】600円 ※中学生以下無料 ※団体(20名様以上:480円)

今回の展覧会では、桜井古墳群と鹿乗川流域遺跡群の墓を交えながら、各地の弥生時代から古墳時代の墓制について紹介します。

地域色豊かな弥生墳墓

弥生時代は、地域や時期ごとに様々な墓制が取り入れられていました。「かたち」となって残る当時の墓制には、主に棺などの種類や埋葬施設の構造、盛土など埋葬施設の上部構造、副葬品や葬送儀礼に使う土器などがあります。棺が際立っているのは、福岡県や佐賀県辺りの九州北部の甕棺墓です。土器を棺に使う方法は、縄文時代から幼児の埋葬方法として広く見られ、市内堀内貝塚でも出土した例があります。しかし、高さ1m以上もある甕を合わせ口にして、大人ひとりを入



1. 小羽山30号墓 (写真提供 福井市立郷土歴史博物館)

入れる方法を取り入れたのは、この地域の特に弥生時代中期だけです。

埋葬施設の上部構造については、特徴的なものに四隅突出型墳丘墓(写真1)があります。山陰・北陸地方で弥生時代中期の終わりから後期に盛行したもので、今回の展覧会では、小羽山三〇号墓(福井県福井市)を紹介します。この墳墓は、丘陵上に築かれた約四〇基の弥生時代後期の墳丘墓群のひとつで、大きさは突出部を含め約33×27mです。棺の中には、墳墓群で唯一、鉄剣とガラス製玉類が副葬されていました。北陸で最古級の四隅突出型かつ大型墳丘墓であり、副葬品や土器の種類からも首長墓と考えられています。

弥生・古墳時代を通じて最も多く出土する副葬品は、石製玉類です。碧玉を原料にした管玉の製作が盛んに行われた八日市地方遺跡(石川県小松市)では、遺跡内の方形周溝墓からこの地で作られた管玉(写真2)が出土しています。この遺跡で製作された管玉やこの地域の碧玉石材は、西日本に広く流通し、北部九州の墓からも出土しています。



2. 方形周溝墓から出土した管玉 (八日市地方遺跡) 小松市埋蔵文化財センター蔵

市内に所在する二子古墳(市内桜井町)と姫小川古墳(市内姫小川町)が、昭和二年(一九二七)に国指定史跡に指定されてからまもなく一〇〇年が経ちます。両古墳は、地域の東部、碧海台地の東端沿いに築かれたおよそ二〇基からなる桜井古墳群を代表する古墳です。桜井古墳群では、近年の発掘調査により、これまで「ない」とされてきた埴輪が出土するなど新たな発見がありました。また、桜井古墳群の造営母体となる鹿乗川流域遺跡群では、弥生時代の土器棺墓や方形周溝墓が確認されています。

画一の中に多様性が光る古墳

三世紀中頃に築かれた箸墓古墳(奈良県桜井市)は、全長280mの前方後円墳で、それ以前に築かれた墳丘墓と比べ規模が格段に大きく、これ以降画一的な古墳が築かれるようになることから、この古墳の出現をもって古墳時代の始まりとされています。この前方後円という「かたち」は、奈良盆地を拠点としたヤマトの勢力のもと全国各地へ波及していきました。なお、市内の桜井古墳群で最も古い二子古墳の前方後方という「かたち」は、東海に起源があります。前方後方墳は、古墳時代前期を中心に各地で造られましたが、中期以降はほとんど造られなくなります。

副葬品は、時期によって種類や組み合わせが異なります。前期には、青銅製の鏡や鉄製の剣等に加え、本래別の素材で作られるものを模して石で作った石製品が特徴的です。写真3は、沖縄や奄美など南海産の貝で作られる腕輪を模したもので、車輪石と呼ばれ



3. 車輪石 (市内柿崎町採集) 安城市教育委員会蔵



4. 特殊器台型埴輪 (矢部堀越遺跡) 倉敷市埋蔵文化財センター蔵 (写真提供 岡山県古代吉備文化財センター)

ています。腕に通らないほど輪の径が小さいことから、実用品ではなく、副葬品として製作されたものと考えられています。中期には馬具が登場し、後期に広く普及します。後期の始め頃に造られた前二子古墳(群馬県前橋市)では、馬具の装飾品である杏葉などが出土しています。この古墳では他に鉄剣などの武器、金製耳輪、ガラスや石製の玉類、須恵器等が副葬されていました。前二子古墳は、十数基からなる大室古墳群のうち最古の古墳で、全長94mの前方後円墳です。この時期近畿では、前方後円墳の築造が減少傾向ですが、東日本では前方後円墳が盛んに造られています。

最後に葬送儀礼の舞台を彩る埴輪について紹介します。埴輪の祖型となる特殊なお供え用の土器が、弥生時代後期に吉備(岡山・広島県の一部)で作られるようになります。これは特殊器台と呼ばれるもので、やがて円筒埴輪へと変化していきます。箸墓古墳には、最終期の「かたち」の特殊器台と初期の円筒埴輪の「かたち」である特殊器台型埴輪が並べられています。写真4は、初期の埴輪と同じ「かたち」である

矢部堀越遺跡(岡山県倉敷市)出土の特殊器台型埴輪です。その後埴輪は、家や人・鳥・馬・盾・太刀など様々な「かたち」が作られるようになります。盾持人埴輪(写真5)は、人の体と盾が合体したかたちをしており、畿内に起源があるとされていますが、多く出土するのは関東です。特に群馬は、多様な埴輪が多量に出土しています。この盾持人埴輪は、前二子古墳の後に造られた中二子古墳の周濠の中にある中堤に並べられていたものです。



5. 盾持人埴輪 (中二子古墳) 前橋市教育委員会蔵

終末期(飛鳥時代)になると、前方後円墳は造られなくなり、小型の円墳や方墳が密集して造られるようになります。権力の「かたち」であった大型前方後円墳の役割が失われ、これまでより下の階層の人々が古墳を造るようになったためです。そして次第に古墳は造られなくなり、「葬送のかたち」は変化していきます。

(文責 後藤麻里絵)



安城合戦ゆかりの地 (前編)

新シリーズ「史跡さんぽ」第2回です。今回は歴史博物館を起点にし、安城合戦で活躍した本多忠高(徳川四天王の忠勝の父)・本多忠豊(忠勝の祖父)の碑、安城城の北の隅櫓・虎口跡、最後に富士塚を訪れます。先人が残した郷土の史跡を目で確かめてみましょう。

歴史博物館をスタートし、県道沿いを右に進むと、石段があり、その右手に「本多忠高碑」の看板があります。石段を上がり、右へ進むと、①本多忠高碑があります。3回目の安城合戦による広忠の死後、松平軍は今川軍と共に織田氏と安城城奪回の戦をしますが、その



①本多忠高碑

先鋒として勇敢に戦い、討死したのが本多忠高です。この碑は寛政九年(二七九七)に子孫である岡崎藩主本多忠顕により、討死した場所に建てられました。

歴史博物館前交差点を北側に渡り、歴史博物館の方に戻ると右手に祠があります。

ここが安城城北の②隅櫓跡です。確かに盛り上がっている跡が見受けられ、城の施設があったように



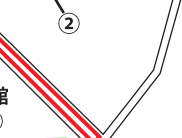
②隅櫓跡



③虎口跡
安城南小中学校



④富士塚



⑤歴史博物館前交差点

感じます。平地を過ぎると右手に道があります。ここに、③虎口跡があったようです。虎口とは、城や曲輪の出入り口で、防御のために道を折り曲げたりして敵が侵入しにくくしたものです。

その道なりに北へ向かって進みます。しばらく行くと、左手に④本多忠豊碑の看板が見えてきます。右手の奥に進むと、⑤本多忠豊碑があります。

忠豊は2回目の安城合戦で、安城城奪還をめざした松平広忠が窮地に陥った時、敵陣に突撃し織田方の注意をひきつけ、広忠の身代りとなり討死した人物です。この碑は寛政六年に討死したとされるこの場所に、岡崎藩主本多忠顕により建てられました。



⑤本多忠豊碑



⑥富士塚

だつたため、富士塚とよばれています。

歴史博物館から安城合戦に関わった人や場所など地域の歴史を感じてみてはいかがでしょうか。

文責…錦見和彦(安城市歴史博物館館長)

三河内藤一族

特別展 安城譜代三

譜代大名内藤家の成立と展開 ～内藤本家「延岡藩内藤家」を中心に～

〔日時〕10月25日(日)14:00～
〔講師〕増田豪氏
(延岡城・内藤記念博物館学芸員)
〔定員〕60名



申込期間 9月5日(土)～10月4日(日)
※往復はがきでの申込は、10月4日(日)必着

申込方法

あいち電子申請システムまたは往復はがきにて受付(抽選)
※往復はがきの場合は、イベント名、氏名、郵便番号、住所、電話番号を明記し、往復はがきにて安城市歴史博物館まで郵送。
※はがき1枚につき、1名申込となります。

高遠藩主内藤家の文化活動

〔日時〕11月1日(日)14:00～
〔講師〕福澤浩之氏
(伊那市立高遠町歴史博物館学芸員)
〔定員〕60名



申込期間 9月12日(土)～10月11日(日)
※往復はがきでの申込は、10月11日(日)必着

特別展記念講演会

歴博講座

関連イベント

内藤信成・信正父子

〔日時〕11月15日(日)14:00～
〔講師〕三島一信(本館学芸員)
〔定員〕60名

当日受付

展示解説

10月 3日(土)10:00～
10月17日(土)10:00～
※先着15名(当日先着順) ※当日9:50～受付

当日受付

講談「三方ヶ原軍記」

〔日時〕10月24日(土)14:00～15:00
〔出演〕旭堂南山氏(講談師) 〔定員〕30名(事前申込み先着順)

申込 10月12日(月祝)
9:00～電話受付

徳川家康のルーツと内藤一族ゆかりの地を巡るバスツアー

〔日時〕11月8日(日)9:00～17:00
〔現地解説〕村岡幹生氏(中京大学名誉教授)
〔定員〕20名(事前申込み先着順)
〔参加費〕5,000円(昼食込み・お土産付き)

申込 10月18日(日)
9:00～電話受付

内藤正成の強弓に挑戦! 弓を射ってみよう

〔日時〕10月12日(月・祝)、10月17日(土)、11月3日(火・祝)
10:00～12:00/13:00～15:00
〔参加費〕100円

当日受付

開催期間 10月3日(土)▶11月15日(日)

漫画家すずき孔さん オリジナル武将パネルフォトスポット

内藤一族 領地獲得すごろく
〔時間〕9:00～16:30

内藤家家紋の缶バッジづくり
〔時間〕9:00～16:30
〔参加費〕100円

三河内藤一族クイズ

〔時間〕9:00～15:30
〔参加費〕200円/1キット
※別途観覧券必要(中学生以下観覧無料)

特別展 葬送のかたち - 弥生墳墓と古墳 -

弥生ムラと共同墓地

〔日時〕12月13日(日)14:00～
〔講師〕若林邦彦氏(同志社大学歴史資料館教授)

古墳時代の葬送と横穴式石室

〔日時〕1月16日(土)14:00～
〔講師〕小林孝秀氏(専修大学准教授)

鹿乗の墳墓と桜井古墳群

〔日時〕1月24日(日)14:00～
〔講師〕後藤麻里絵(本館学芸員)

開催期間 12月5日(土)▶1月24日(日)

古墳のステンシルで小物づくり 葬送のかたちクイズ

安城市内古墳巡りウォーキング

〔日時〕12月6日(日)9:00～12:00
〔定員〕15名(事前申込み先着順) 〔参加費〕600円
〔申込み〕11月15日(日)9:00～電話受付

自然乾燥ねん土で埴輪をつくろう!

〔日時〕12月20日(日)9:30～12:00
〔講師〕谷中ジンジャー
〔定員〕20名(事前申込み先着順) 〔参加費〕2,000円
〔申込み〕11月29日(日)9:00～電話受付

管玉のブレスレットづくり

〔日時〕1月11日(月・祝) ①10:00～12:00 ②13:00～15:00
〔講師〕歴史の里マイスターの会
〔定員〕各20名(事前申込み先着順) 〔参加費〕400円
〔申込み〕12月20日(日)9:00～電話受付

関連イベント